

## 台東区学校教育ビジョン パブリックコメント実施結果

意見募集期間	令和元年5月28日（火）～令和元年6月17日（月）		
意見受付場所	区公式ホームページ、各区民事務所・分室・地区センター、 区政情報コーナー、生涯学習センター、指導課		
意見受付件数	12人	23件	
提出方法の内訳	ホームページ 9人（17件） 郵送 0人（0件）	持参 2人（2件） ファクシミリ 1人（4件）	

項番	ご意見	区の考え方 (本ビジョンの参照箇所)
1	「学校園」という概念が提起されているが、もう少し具体的な提示をしてほしいです。	<p>学校園とは、区内の保育園・幼稚園・こども園及び小・中学校を指します。</p> <p>本ビジョンにおいては「就学前教育」「小学校教育」「中学校教育」全般を学校教育と定義しております。今後も、0歳から15歳までの一貫した教育の充実に向けて取り組んでまいります。</p> <p>(第1章 学校教育ビジョン策定の位置付け)</p>
2	<p>「教育はひとづくり」とあります。</p> <p>このビジョンの中の「ひとづくり」には、台東区というローカルエリアの発展や持続への寄与を期待するような意図が存在しています。一人一人の子供達が自分を形成していく中で、世界に羽ばたくものもいれば、地域に留まるものもいる、ひとりでコツコツやるものもいれば、他の大勢の仲間と一緒に共同するものもいる。それらを自由に選択し、自律的に行動するための基礎体力を身につけるのが本来の義務教育であり、分厚い民主主義社会を形成する為の基礎となる部分ではないでしょうか。</p> <p>台東区の教育ビジョンであれ、どこの区の教育ビジョンであれ、本来的には関係ないはずですし、間違っても、いち行政区域のために人を作る教育であってはならないはずです。</p>	<p>台東区教育大綱の「自己実現と支え合い」に示すとおり、自律的な人を育てるには、自他を尊重し共に支え合う態度の育成が重要と考えます。区ではこれまでも、地域への愛着を通して子供の所属感を高めながら学校教育の充実を図ってきました。このような教育の推進は自他を尊重し共に支え合う態度の育成につながると考えております。</p> <p>今後も学校、家庭、地域が一体となって「ひとづくり」を進め、自律的な人を育てる教育を推進してまいります。</p> <p>(第1章 台東区教育大綱、基本理念について、第3章)</p>

	<p>世界に羽ばたいて欲しい、未来を創造して欲しいと願っておきながら、実は真逆のビジョンも並立していることに強い違和感を覚えます。</p>	
3	<p>基本理念にもある、まちを学びのキャンパスにというキャッチフレーズにふさわしい、地域に積極的にかかわり、地域から学ぶといった台東区教育ビジョン推進に向けての指針が非常に良いと感じました。実際私も地域の小学校のコミュニティ委員会に参加させていただいているという経緯もあり、教育機関が地域と協力して教育活動をおこなっているのを見ているので、台東区の教育ビジョンをこれからも積極的に推進して欲しいと感じました。</p>	<p>区では、地域の様々な資源を生かした教育を推進しています。今後も学校教育ビジョンに掲げる基本理念に基づき、学校教育の充実に向け、様々な事業に取り組んでまいります。</p> <p>(第1章 基本理念について、第2章 施策目標4)</p>
4	<p>P7. 3計画の全体像(1)全体像の育てたい人間像について</p> <p>従来と同様の内容であるが、3項目とも2行で表現していたものをスッキリと1行で表現し、より育てたい人間像が明確になっている。</p>	<p>「育てたい人間像」については、計画の全体像が明確となるよう、より端的な表現となるようにしました。今後も学校教育ビジョンに掲げる基本理念に基づき、社会全体の今後一層の発展を実現するための「ひとづくり」を進めてまいります。</p> <p>(第1章 育てたい人間像について)</p>
5	<p>P10～(2)施策目標について</p> <p>従来と同様に4項目で構成されており、妥当である。</p> <p>施策目標1～4は、従来の施策目標をベースとしつつも、ブラッシュアップし、あるいは新たな項目を加えて表現をリニューアルしており、すっきりしたように感じました。</p> <p>ただし、施策目標1について言えば、具体的施策を見ると「人権教育の推進」「生命尊重の教育の推進」・・・が立てられており、新たな時代に対応した教育というよりは、「不易と流行」の「不易」に近い教育内容であるように感じます。とすると、この施策目標については、「新しい時代に」というよりは、従来からの「これからの社会・・・」「これからの時代・・・」と表現した方が適切であるように思われまし</p>	<p>施策目標1には「不易」の要素が多いものの、情報活用能力や新たな価値を創造するための教育などの「流行」に該当するものも含まれております。その意味で、「新しい時代」と表現しております。</p> <p>(第1章 育てたい人間像について、第2章 施策目標1)</p>

	た。	
6	<p>現在子供を区立幼稚園に通わせています。先生や設備は素晴らしいと思うのですが、一点違和感を覚えることがあります。それは「クリスマス」のようなキリスト教など特定の宗教由来のイベントの宗教色を無くしていることです。(具体例①：クリスマス会を「お楽しみ会」と表記 具体例②：保護者有志による園の装飾にクリスマスなど特定の宗教色を感じられるようなものを禁止)</p> <p>私は「宗教由来のイベントは宗教だけでなく文化や歴史も反映している」と考えています。無宗教の家庭や特定の宗教の家庭に配慮・クレーム予防のために季節のイベントの宗教色を限りなく排除しようとしているのかもしれませんが、幼稚園から一歩出れば日本の街は各国から取り入れたイベントを楽しんでいます。外部は外国の宗教イベントを文化やお祭りとして取り入れているのに、区立幼稚園でだけそれを押さえつけて蓋をするのは甚だ違和感を覚える現象です。日本にすでに広く浸透した宗教由来のイベントを、区立幼稚園で排除するという事は、子供たちが宗教を含む各文化に触れる機会を奪っているようにさえ感じます。特に、無宗教・特定の宗教の家庭の子は、自分の家庭では触れることのない文化を知る機会としても良い体験になるのではないのでしょうか。東京はオリンピック会場に選ばれ、台東区は日々海外からの観光客を受け入れているグローバル都市なのに、区立幼稚園だけ各国文化をシャットアウトするような方向に向かっているのは甚だ遺憾です。子供たちが幼少期から異文化を学ぶ機会を封じておいて、これで国際都市を謳えるのでしょうか。区立幼稚園で、全ての宗教のイベントをやれとっているわけではありません。しかし、せめてハロウィンやクリスマスのような、すでに古くから日本に広く浸透して、街中でも賛同者が多く見られるようなイベントを</p>	<p>多様化、国際化が急速に進んでいる中、学校教育において、多様な文化に触れ、理解し親しんでいく活動が重要であると認識しております。各学校園では、実施している行事の名称は様々ではありますが、特定の宗教に偏重せず文化的に調和のとれた教育活動を展開しております。</p> <p>今後も各学校園において異文化に触れる機会を設け、グローバルに活躍する人材の育成に努めてまいります。</p> <p>(第2章 施策目標2)</p>

	<p>区立幼稚園から締め出さないようにしていただけないでしょうか。区立幼稚園に通う子供たちから、「世の中には色々なイベントがあり、世界の文化や宗教を反映していて、日本がどのように取り入れてきたか」ということを、幼少期から触れて学べる機会を奪わないでほしいと強く願っております。</p>	
7	<p>外国人観光客の来訪が多いことから、多言語教育により、道路地図を見ている外国人がいたら、道案内出来るぐらいの語学力と機会、意欲を小学校から早期に導入したいです。英語だけでなく、世界には様々な言語ある、多言語教育も導入し、浅草寺、上野公園で実地の観光客と会話をするなど体験授業を取り入れたらどうでしょうか。</p> <p>基本理念が「まちを学びのキャンパスとし世界に飛躍し未来を創造する人を育成する」ならば、まさに浅草、上野の街で世界の外国人と触れ合い、街を学びのキャンパスとできるだろう。そのことにより、世界に飛躍する、きっかけが生まれます。その機会を提供するのが教育であると思います。</p>	<p>浅草寺、上野恩賜公園の近隣校では、これまでも外国人観光客と会話する活動を実施してきました。今後も教育活動における外国人との交流を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育ててまいります。</p> <p>(第2章 施策目標2)</p>
8	<p>台東区は、様々な施設に出かけて授業を行ったり、区の事業のおかげで出前授業ができたり、日本の伝統文化に触れる機会も多かったりと、地域に根ざした有意義な教育が行えていると思います。</p>	<p>区では、区内外の様々な資源を生かして事業を実施し、子供たちの教育に取り入れています。今後も基本理念を表すキャッチフレーズにあるように「まちを学びのキャンパスとし」地域に根差した教育を進めてまいります。</p> <p>(第2章 施策目標2)</p>
9	<p>教育改革の推進として学校教育ビジョン策定とあるが、台東区教育大綱には、「台東区は、上野、浅草、谷中、隅田川など歴史と伝統に恵まれた地域を擁し、情緒ある個性豊かな文化を育んできたまち」とあります。</p> <p>近年、台東区は観光都市として注目を集め、様々な歴史的伝統と財産を有する特色がある。そこで、台東区の文化的特色を生かした教育が台東区学校教育には重要と考えられます。</p>	<p>現在、学校園では恩賜上野動物園や東京国立博物館等の区内施設との連携事業を活用し、数々のワークショップを実施しております。</p> <p>また、東京藝術大学の協力による音楽鑑賞教室や、同大学及び上野学園の学生による児童・生徒への演奏指導なども実施しております。</p> <p>今後も本区の文化的特色を生かし、教育活動の充実に資する連携事</p>

	<p>台東区の特色とは上野には恩賜公園、日本を代表する上野動物園、多くの美術、博物館、東京文化会館、国立芸術大学と上野学園、浅草には浅草寺と六区、古くは浅草オペラ発祥の地もあります。落語も浅草演芸場と鈴木演芸場の二つを抱え、谷中界限と墓地、隅田川の流れが、自然と文化が融合した素晴らしい街であると思います。</p> <p>そこで、教育にもその特色を生かした学校教育を推奨したいです。キーワードは「文化と芸術の街、台東区」です。</p> <p>小学校から学校教育にも、芸大、上野学園から芸術に関する専門家を招き、幼少期より専門家との提携で文化芸術に触れさせる機会を創るものであります。</p> <p>台東区学校教育ビジョンの理念を読むと、一般的、総論的であり、台東区の特色を生かした教育プランを述べているとは思えません。まず台東区がどんな街であるか、理念を示すことが大切です。すなわち、台東区を文化芸術都市として規定し、そのための教育をどうするか、という観点が欲しいです。</p> <p>具体的には音楽の街として、私、個人としてはミュージカル、オペラ教育を推奨します。</p> <p>例えば、上野動物園の可哀そうな象を題材とした、象列車コーラスミュージカル、以前、10年以上前に浅草オペラ発祥として台東オペラも一度あったが、隣の文京区には文京区民オペラが20年も行われている。</p> <p>そういった、文科系術に触れる機会として、学校から象列車コーラス、台東オペラを台東区民と協同して行う。これは生涯教育との連携とも関連する。</p> <p>隣りの「文の都」が文京区であるならば、「音楽、芸術の街」が台東区として特色を打ち出して、幼少期よりの豊かな情操教育を育む教育プランを提案します。</p>	<p>業を展開してまいります。</p> <p>(第2章 施策目標2)</p>
10	<p>施策目標3 多様なニーズを具現化する教育を展開するについて「特別支援教育」が幅広い児童に対応できるよう、医療的ケア児への</p>	<p>区ではこれまでも、医療的ケアを必要とする児童・生徒への支援として、通学支援（ガイドヘルパーの派</p>

	<p>学校参加などについての施策を文言として入れてもらいたいです。</p> <p>というのも、平成30年3月に台東区の「第5期台東区障害福祉計画・障害者施策推進の課題と取り組み」の中、「障害児に対する支援の充実」の項目中、「障害児支援の提供体制の充実」として、「医療的ケア児支援のための関係機関協議の場の設置」とありますが、他区ではすでに医療的ケア児の通常学校での授業参加など、介護的なケアを越えた就学に対する具体的な取り組みが始まっているのにも関わらず、台東区では協議の場の設置という目標にとどまり、この課題について台東区が遅れているのは否めないというところかと思えます。</p> <p>医療的ケア児については、学校園と専門諸機関等との連携という中に、医療関係者が入ってくるのが難しさを作っているのはわかりますが、ぜひ医療的ケア児についての記述を追加していただけるようお願い致します。</p>	<p>遣) や在宅レスパイト事業などにより対応してきました。</p> <p>現在、医療的ケア児支援のため、保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関による協議の場の設置を進めているところであり、引き続き「第5期台東区障害福祉計画」に基づいて取り組んでまいります。</p> <p>(第2章 施策目標3)</p>
11	<p>施策目標3⑨子供が豊かに～の中の『特別支援教育の推進』にあります、「障害のある子供一人ひとりの自立や社会参加に向けた特別支援教育の一層の推進を」ぜひ図っていただきたいです。</p> <p>障害を持つ親は、悩んでいます。困っています。幼稚園に普通に通わせたくても、支援員さんの確保が難しく人数少ないからとされません。</p> <p>どこかへ相談したくても松が谷福祉会館は小学校に上ったら卒業です。あとは小学校で相談して下さいという状況です。</p> <p>この子たちの小・中・高そしてその先は本当に不安だらけです。もっと相談できる場所や学校が終わり過ごせる場所と人材の確保、是非充実して欲しいです。</p> <p>障害をもつ子たちは普通に外へ外出したりしにくい状況です。</p> <p>それには周りの協力、支援が必要です。</p> <p>少子高齢化になっていくこの先、健常な子</p>	<p>区ではこれまでも、学校園と保護者の共通理解のもと、特別支援教育の推進に取り組んできました。</p> <p>今後も学校園と医療、障害福祉等の専門諸機関との連携・協働を進め、特別支援教育の一層の推進を図ってまいります。</p> <p>(第2章 施策目標3)</p>

	<p>たちの育成ばかりでなくどうか障害をもった子たちへの支援も後回しにせず忘れることなく最優先課題として対応して下さるよう、よろしくお願いします。</p> <p>放課後デイサービスの数も台東区は少なすぎる、支援員さんへのお給料は他区と比べ安すぎるからどんどん支援員さんが他区へ流れてしまう。</p> <p>中には、他区へお引越しされる方もいる、と聞きますが、我が家は引っ越すことができません。</p> <p>台東区は障害者・児への支援が充実されて住みやすいねと言われる、そういう区にしてください。お願いします。</p>	
1 2	<p>施策目標 3 多様なニーズを具現化する教育を展開するについて、学力向上推進ティーチャーや支援員などの人材が豊富で、外国にルーツを持つ児童や学習に困難を抱える児童に手厚い指導が行えていると思います。</p>	<p>区ではこれまでも、一人ひとりの子供が豊かに学ぶ教育環境づくりを推進するために、学力向上推進ティーチャー、特別支援教育支援員、日本語指導講師等の人的支援をはじめ、学習教材や I C T 教育環境等の整備を進めてきました。今後も時代の変化に対応した教育環境の整備を推進してまいります。</p> <p>(第 2 章 施策目標 3)</p>
1 3	<p>施策の方向 1 0 にある、子供の諸課題に対する組織的な対応について、問題が悪化する前に様々な関係機関と連携を取り、解決に向かうことはもちろん大切だと思いますが、学校で起きる問題が年々、多様化・複雑化しているので、学校・家庭が想定外にトラブルに巻き込まれた場合の支援も考慮してほしいです。</p>	<p>子供に関わるトラブル対応においては、これまでも子ども家庭支援センターや警察等の関係機関との連携・協働により学校園の機能を支援してきました。今後も関係機関等との連携により組織的な対応を進めてまいります。</p> <p>(第 2 章 施策目標 3)</p>
1 4	<p>虐待について、怪しいと思った時点で対策を取れると良いと思います。身近に虐待の事例がないので、テレビでの情報しかありませんが、通報があった時点での対策があると、守れる命があると思います。台東区は高齢者が多いので、なかなか子ども達への予算が使えないと思いますが、将来を担っていく子ども達が、安全に色々な体験が出来る環境になる</p>	<p>区ではこれまでも、日本堤子ども家庭支援センターを中心に、各学校園、教育委員会、児童相談所等との連携・協働により、児童虐待の通告義務に関する区民への周知とともに、通告後の迅速な対応により、児童虐待の早期発見・早期対応に取り組んできました。今後も引き続き、児童虐待</p>

	事を願います。	防止対策の強化に取り組んでまいります。 (第2章 施策目標3)
15	全体的には概ね賛同です。ただ、先ずは世論でも問題になっている学校教育に携わる方々の労働環境等を徹底して改善してから学校教育の問題を改善して欲しいと思います。	区では教員の労働環境改善に向けて、平成30年12月に「台東区立学校における働き方改革プラン」を策定し、各町会への説明やリーフレットによる保護者への周知等を行っております。今後も、持続的な教育活動の維持向上の実現に向けて取り組んでまいります。 (第2章 施策目標3)
16	働き方改革については、休日出勤してしまうこともあります。スクールサポートスタッフが入り、助かっている部分が多々あります。全校に広がると良いと思います。	各学校園における働き方改革の推進のために、これまでも学力向上推進ティチャーやスクールサポートスタッフの配置等を行ってきました。今後も「台東区立学校における働き方改革プラン」に基づき、取組の推進に努めてまいります。 (第2章 施策目標3)
17	子ども達が放課後、公園で安心して安全に遊べる環境を整えて頂けると助かります。保護者が一緒に行けるのが一番ですが、共働き等の家庭はなかなか行けないので、例えば夕暮れチャイムが鳴るまでは、公園にいて下さる大人を常駐することができると有り難いです。	区ではこれまでも、子ども110番や公遊園管理協力員等により、地域の協力による子供の安全対策を進めてきました。今後も子供の安全安心のために、地域及び関係機関と協働し取り組んでまいります。 (第2章 施策目標3)
18	文学的には、樋口一葉記念館、文京区には森鷗外記念館もあり、夏目漱石、幸田露伴などの関連もあるので、提携して美しく素晴らしい日本語を朗読する、朗読会、読書感想文大会などの機会を増やしたいです。	学校園では、これまでも一葉記念館の学芸員トークや国際子ども図書館のおはなし会など、区内の文化施設等と連携して教育活動を実施してきました。今後も区内の文化施設等を活用して、読み聞かせや朗読会、本に触れる機会など、様々な取組を進めてまいります。 (第2章 施策目標4)
19	P29施策の方向⑭の「0歳から15歳までの一貫した教育の充実」については、従来と同様であり、理念としてはそのとおりであり、学校現場としても強く望むところである。一	区ではこれまでも、中学校区ごとの保育園・幼稚園・こども園及び小・中学校の連携強化を目的とした「連携の日」の実施などにより、0歳から



	<p>方で、本校の場合、区内15校の小学校を含め23校の小学校から子供が進学してくる実態を勘案すると、いくら中学校区で連携を促進しても、十分な幼小中を一貫した教育の充実は望めないという実態がある。理念と実際のギャップを感じる。</p>	<p>15歳までの一貫した教育の実現に向けて取り組んできました。</p> <p>今後も台東区学校教育ビジョンの各施策を確実に実施し、学校教育の一層の充実を図ってまいります。</p> <p>(第2章 施策目標4)</p>
20	<p>P31の施策の方向⑯の「教育行政における学校園経営の支援」について、従来の記述に引き続いて今回も記述されており、学校現場を預かる校長として大いに期待するところである。校長がしっかりとした学校経営ビジョンとマネジメント能力をもつことは大前提ではあるが、今後一層、校長の創意工夫を發揮できるように、更なる支援をお願いしたい。</p>	<p>区ではこれまでも、魅力ある教育活動の推進事業をはじめ、ICT支援員や特別支援教育支援員等の専門スタッフの体制整備等により、校園長が創意工夫して学校園経営を推進するための支援をしてきました。</p> <p>今後も各学校園が創意工夫して自律的な学校園経営ができるよう、支援に努めてまいります。</p> <p>(第2章 施策目標4)</p>
21	<p>施策については、細かく具体的に打ち出されているので、分かりやすいです。</p> <p>子ども達が通う、幼稚園や小学校でカリキュラムに取り入れられています。</p>	<p>学校教育ビジョンの理念を実現するため、行動計画として「学びのキャンパス台東アクションプラン」を策定しております。今後、本ビジョンに合わせて令和2～4年度におけるアクションプランを策定していく予定です。</p>
22	<p>全体を読むのに、長過ぎて最後まで読むのが大変だった為、もう少し簡潔にまとめて頂けたらと思います。</p> <p>学校関係のアンケートは大半が現在子育て中の方々だと思います。そういった方々が隙間時間にアンケートを熟読するのは大変です。</p>	<p>学校から保護者の方々に依頼するアンケート等について、可能な限り簡素化を図れるよう、学校と協働して改善に努めてまいります。</p>
23	<p>机上の空論にならず、しっかりしたファクトをつくり、実行してほしい。</p> <p>民間や、町会に協力を要請してでも、まず行動をおこすこと。</p> <p>探究型のカリキュラムをどんどん増やして欲しいです。</p> <p>「まちを愛し」のところ、子供の祭りへの参加支援もお願いしたい。</p>	<p>具体的な事業につきましては、本ビジョン策定後、行動計画である「学びのキャンパス台東アクションプラン」に示す予定です。</p> <p>各事業の実施においては、本区の恵まれた地域の伝統や文化・環境を生かして、区民の理解・協力を得ながら進めてまいります。</p>